

# 平成30年度 学校自己評価システムシート ( 県立所沢商業高等学校 )

目指す学校像	資格を活かし、未来を拓く商業高校
--------	------------------

重点目標	1 希望する進路実現 (進路指導) 2 基礎学力及び資格取得の向上 (学習指導) 3 基本的生活習慣の確立と生徒が活躍できる場の確保 (生徒指導) 4 地域に信頼される学校づくりの推進 (開かれた学校)
------	--

達成度	A	ほぼ達成 (8割以上)
	B	概ね達成 (6割以上)
	C	変化の兆し (4割以上)
	D	不十分 (4割未満)

※学校関係者評価実施日とは、最終回の学校評価懇話会を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。

出席者	学校関係者	3名
	生徒	3名
	事務局 (教職員)	6名

※ 重点目標は3つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目 (年度達成目標を意味する。) は複数設定可。  
 ※ 番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

学 校 自 己					学 校 関 係 者 評 価	
年 度 目 標					年 度 評 価 (2月1日 現在 )	
部	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	達成度	次年度への課題と改善策
1	「3年間の進路プログラム」に基づいた系統的な指導により、就職・進学の実現率は100%を誇る。多様な進路希望や入試方法や雇用状況の変化に対応できるように、正しい職業観・勤労観を育成するためにキャリア教育を推進する必要がある。	生徒ひとり一人の特性に応じた、きめ細かな指導により、100%の第1進路希望の実現を目指す。	①進路ガイダンスをはじめ、適性検査、SPI検査、一般常識テスト等を活用して、自己の特性を理解させ、第1進路希望の実現を図る。 ②生徒一人ひとりに対して、保護者を巻き込んだ、きめ細かな進路相談を実施する。 ③企業訪問や大学説明会等の参加を積極的に行う。	①第1進路希望が実現できたか。 ②各種進路行事 (ガイダンス) が生徒アンケートから満足度80%以上を達成できたか。 ③企業訪問70社以上と大学訪問20校以上を行い、新たな求人開拓と進学先開拓ができたか。	A	①生徒の自己管理能力や自己肯定感を身につけさせ自己の成長を実感できる取り組みを目指す。 ②各種ガイダンス、行事に積極的参加意欲の低い生徒がいる。 ③今後も進路プログラムの内容、その効果、作業量を意識して取り組んでいく。 ④個別面談を多く実施し、生徒の様子や考えを進路指導に生かしていく。 ⑤様々な分野で活躍している卒業生の情報を在校生に伝えていく必要がある。
2	生徒の潜在能力を引き出すために、基礎学力の向上や高度な資格取得を目指し、組織的に取り組んでいる。結果、検定1級取得者が倍増したが、一層の自学自習ができるように授業の「わかりやすい」授業と新たな指導法研究に取り組む必要がある。	学力向上及び高度な資格取得のために、基礎的・基本的な学力を身に付けさせる。	①基礎力診断テスト (2回) や各種検定の模擬試験等を通じて、自己の実力を把握させ、「学び直し教材」を各教科で作成し、学力向上の意識を高める。 ②上位級の資格取得を目指し、学校生活に目標を持たせ、充実した学校生活にする。 ③知的好奇心を刺激する図書館利用案内の充実により、自学自習の習慣を育てる。 ④「授業研究週間」と「未来を拓く学びプロジェクト」の活用し、授業改善を行う。	①基礎力診断テスト結果及び検定結果等により、学力が向上したか。 ②上位級の合格率が上がったか。 ③図書館の利用率と貸出冊数が増えたか。 ④教員相互による授業研究回数とICTの活用等による工夫した授業の実施回数が増えたか。	B	①生徒の潜在能力をどのように引き出し、進路実現につなげるかを研究していく必要がある。 ①つまずきの時期、状況を把握する必要がある。 ②改めて各種検定試験の必要性を熟知させる必要がある。 ③知的好奇心を高める図書館の利用について、工夫する必要がある。 ④「授業研究週間」と「未来を拓く学びプロジェクト」を生かして授業改善を行う。
3	遅刻数減少などをはじめ、全教職員による組織的な生徒指導により、基本的生活習慣が確立されているが、交通マナーなどの社会規範意識を育成する必要がある。生徒一人ひとりが活躍できる場と時として、部活動の活性化と学校行事を充実させる必要がある。	社会人として必要なマナー・ルールを身に付け、自主・自律的な行動ができる生徒を育成する。	①全職員による登下校・校内巡回等、きめ細かい指導及び生徒による挨拶運動・駐輪指導等の実施。 ②毎月の朝礼の講話、外部講師の活用、LHRでの充実した道徳教育の実施。 ③文化祭をはじめ、生徒会による自主的・積極的な学校行事の運営。 ④「チーム所商プロジェクト」を通じて、部活動を活性化させる。	①規範意識が向上し、出席率も向上したか。 ②生徒会活動が主体的、自主的に運営できたか。 ③文化祭来場者の小中学生が昨年度より増加し、活性化したか。 ④部活動の加入率が増えたか。	A	①交通安全指導 (登校・下校) 継続して実施する。 ①校門前指導を今年度同様に実施する。 ①風紀委員による駐輪指導や校内巡回指導も継続する。 ①始業式、全集会、終業式で現状報告、継続的な指導を行う。 ②生徒の活躍できる場所と時を増やし、自己肯定感を育てる。 ③文化祭の企画段階で生徒の自主的な企画ができるように支援する。 ④「所商プロジェクト」の取り組みを継続する。
	地域の小中学校や商店街、介護施設等と連携した教育活動を積極的に推進し、地域から高い評価を得ている。創立50周年記念行事を成功させ、地域に愛され、信頼される学校づくりを進め、商業教育の魅力や特色を情報発信する必要がある。	地域との連携を深める教育活動を実施する。	①本校の魅力・特色を積極的に発信し、工夫を凝らした、充実した体験入学や学校説明会を実施する。 ②学校HPの更新回数を増やし広報活動を工夫し、活発化させる。 ③50周年記念行事をとおして、PTA・後援会・同窓会、地域と連携を深め、所商ファンを増やす。	①本校と連携する地域機関が増加し、生徒の地域を大切にする心を育てたか。 ①体験入学、学校説明会等の参加人数が増え、満足度が高まったか。 ②「所商ブログ」等の更新回数を50回以上行い、内容を充実させることができたか。 ③学校関係者からの評価は向上したか。	A	①地域の関係諸機関との連携を強め、地域の学校として生徒が地域との交流を深める。 ①大学等との連携事業を継続的に行う。 ②少子化の進展等を考え、商業高校を取り囲む環境を認識し、現実即した特色ある学校作りを進める必要がある。 ③PTA、同窓会、後援会の支援により50周年行事が盛大に行えた。今後も継続して所商ファンを増やす取り組みが必要である。

・進路決定率 100%のために、学年の状況に応じた計画を綿密に立てられ、円滑に実施できている。  
 ・過去数年あまり見られなかった生徒の進路希望が一層多様化してきているが、丁寧な進路指導が実を結んできている。  
 ・生徒の進路指導に対する姿勢を「受け身」から「主体的」なものに変えていく必要がある。  
 ・「未来を拓く学びプロジェクト」による主体的な学びの成果として、生徒たちが自分の力で進路を切り開く力が育成されている。  
 ・自分と異なる意見や視点で他者と議論や意見交換等ができる力の育成が必要である。

・資格取得で1級取得者の多さは先生方の努力と生徒の努力の成果であり、今後も継続した取り組みを期待している。  
 ・各種検定の問題が漸傾向となり、合格率が下つてしまい、対策を講じる必要がある。  
 ・成人年齢が18歳に引き下げられたことから、生徒は自己管理意識と自己責任意識を持つ必要がある。  
 ・図書館の利用は知的好奇心を高めるとともに、学習姿勢や豊かな表現力にも関係することから、生徒には図書館をたくさん利用してもらいたい。  
 ・義務教育でも取り組んでいるが、高校でも「協調学習」に取り組み、授業研究を行っていくことは重要である。

・社会人として基本の「あいさつ」「服装」「時間を守る」ことに対する取り組みの効果は、遅刻数において顕著であり、周年行事での生徒の姿は立派だった。  
 ・基本的社会のルールについて、生徒相互に注意しあえたりする友人関係をつくるとともに、大人としての自覚をしてもらいたい。  
 ・ヤングケアラーの問題意識が関東地域では薄いのが、本校でアンケート調査協力の形で取組んだおかげで、今後全国的な問題意識の高まりが期待できる。  
 ・生徒が活躍できる場所と時を新たに作りことも重要だが、現在の取り組みの充実も重要である。  
 ・西部地区優勝や各部の活躍は、素晴らしい。

・地域の方々との交流できるように生徒が学校外での活動を増やしてもらいたい。  
 ・所商ファンを増やすために中学校との連携は重要である。文化祭などの野球以外の部も地域の子どもたちのために教室を開催してはどうか。  
 ・50周年記念式典は、多くの本校関係者の支援により盛大に開催できたことを踏まえ、所商ファンを増やす努力をしてもらいたい。

